



バイリンガル子育ての ヒント

vol.5

『最適な環境作り』



孟子の母は、始めは墓場のそばに住んでいたけれど、孟子が葬式のまねばかりするので、市場の近くに引っ越しました。ところが今度は孟子が商人の駆け引きをまねるので、学校のそばに転居しました。すると孟子は礼儀作法をまねるようになったので、これこそ教育に最適な場所だと定住することしました。皆さんもよくご存じの「孟母三遷の教え」です。

バイリンガル子育てで本気でやるなら、孟母の様にそのために最適な環境作りをしなければなりません。子供を英語オンリーのモノリンガルな環境においてしまうと、日本語を話すことを恥ずかしがる様になり、バイリンガル子育てに大きな支障を来します。「日本語、話さないで」という友達の間で一言で子供の日本語学習意欲は一

気に低下してしまえます。子供がしっかり日本語力を身につけるまで、あるいは友達の間で一言に屈しないほど強くなるまでは、周りをバイリンガル教育に理解がある人々で固めておくことが大切です。日英のバイリンガルが多くいて日本語も英語もしゃべれて当たり前という雰囲気であればベストですが、大事なのはバイリンガル教育の意義を理解していることで、どんな言語であって構いません。

日本人や日本語学校が比較的多く、またその他の言語を話す移民も多いバイエリアはアメリカの他の地域に比べて環境面では大変恵まれています。それでも地域や学校によっては、圧倒的に英語オンリーの環境で、外国語を話すことは恥ずかしいことという風潮がある場合もあります。もしお子さんの通っている学校や住んでいる場所がそんな雰囲気でお子さんがそれに同調している様なら、孟母の様に、思い切って引っ越すなりして、学校を含む環境を変える勇氣も必要でしょう。

アメリカに住みながら、日本語を習得するのはただでさえ容易ではありません。日本語も勉強して当たり前、日本語が話せると格好いい、日本文化はすばらしい、そんな環境であれば、日本語の勉強も捗ります。子供の友達、子供が通う学校、そしてご近所さんを含む子供の環境をバイリンガル教育への理解者で固めること、これがバイリンガル子育てを確実に成功に導く道だと言えるでしょう。



宮崎 直子

津田塾大学英文科卒、イリノイ大学アジア研究科(日本語教育、言語学専攻)修士課程卒。ことば+カルチャー (kotobaandculture.com) 代表。

